

都市再生整備計画 事後評価シート
庁舎および大貫駅周辺地区

平成29年2月

千葉県富津市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	富津市	地区名	庁舎及び大貫駅周辺地区			面積	1,304 ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	705.0百万円	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路:市道山下飯野線、市道下飯野線、市道小久保岩瀬線、市道太田寺谷線、大貫駅地下歩道整備、大貫駅東口駅前広場整備 地域生活基盤施設:大貫駅駐輪場 高質空間形成施設:大貫駅地下歩道防犯対策(照明)						
		提案事業	地域創造支援事業:大貫駅地下歩道防犯対策(防犯カメラ、落書き防止対策) 事業活用調査:事業効果分析調査						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路:市道太田寺谷線、市道仲町太田浜町線 高質空間形成施設:大貫駅地下歩道防犯対策(照明)	事業費圧縮のため削除			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		提案事業	事業効果分析調査	市の単独費で実施するため削除			影響なし		
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-			-		
		提案事業	-	-			-		
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
変更	平成24年度～平成28年度								

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	道路の満足度	点	-0.42	平成21年度	0	平成28年度		-1.26	×	あり なし	市民アンケートでの満足度では目標値を達成していないが、各路線とも事業実施箇所での基礎的な工事や用地買収が概ね完了し、工事着工直前まで進んだ。さらに、平成29年度から各路線の工事着手を順次進める予定である。	-
指標2	地下歩道の通行者数	人	904	平成23年度	990	平成28年度		1,089	○	あり なし	老朽化した施設の改修により、非常に明るく安全、安心な空間になり、落書きもなくなり、整備前より一般(高校生以下を除く)の男性・女性、高校生以下の男性・女性の地下歩道利用者が共に増加し、目標値を上回った。	-
指標3	駐輪場の満足度	点	-0.81	平成23年度	0	平成28年度		3.1	○	あり なし	整備前は屋根が無く、放置自転車や転倒自転車が多く防犯上にも問題があった施設の改良に、利用者の要望を取り入れ整備したことにより、快適で利用しやすいと満足度向上につながり、目標値を上回った。	-

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	広域道路の公共用地の確保率	台	0	H23				92.0			道路整備は、目に見える形まで工事が進んではいないが、市道整備に係る用地買収進捗率は、3路線とも順調に進んでおり3路線平均で92%まで進み、工事着工できる状況に至っており、道路事業は着実に推進されている。	-
その他の数値指標2	地下歩道利用者増加率	%	0	H23				38.0			地下歩道は着実に明るく安全、安心な空間づくりが進んでいるとの理解が高まり、安全性・利便性が評価されて一般(高校生以下を除く)の通行者数も38%伸びて地下歩道利用者が増加に寄与している。	-
その他の数値指標3	駐輪場の安全性向上	点	0	H23				2.5			整備前は屋根が無く、放置自転車や転倒自転車が多く防犯上にも問題があった駐輪場の施設改良の要望に応える整備が行われ、施設の改善や防犯性の向上について評価が高まり、整備が寄与している。	-

4) 定性的な効果発現状況

5) 実施過程の評価	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
		実施できた	実施できなかった	
モニタリング	住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
持続的なまちづくり体制の構築	モニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	

様式2-2 地区の概要

庁舎及び大貫駅周辺地区(千葉県富津市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値	年度
大目標:安全と安心を実感できるまちづくり 目標1 安全・安心な生活環境基盤づくり 目標2 利用しやすい公共施設づくり	道路の満足度	単位:点	-0.42	H21年度	0	H28年度	-1.26	H28年度
	地下歩道の通行者数	単位:人	904	H23年度	990	H28年度	1,089	H28年度
	駐輪場の満足度	単位:点	-0.81	H23年度	0	H28年度	3.1	H28年度
	広域道路の公共用地の確保率	単位:%	0	H23年度	—	H27年度	92.0	H27年度
	地下歩道利用者増加率	単位:%	0	H23年度	—	H27年度	38.0	H28年度
	駐輪場の安全性向上	単位:点	0	H23年度	—	H28年度	2.5	H28年度

大貫駅東口駅前広場(新道路等)

大貫駅東口駅前広場(シェルター、ベンチ)

大貫駅地下歩道全景

大貫駅地下歩道入口

大貫駅駐輪場

市道山王下飯野線

市道下飯野線

市道小久保岩瀬線

大貫駅周辺整備計画図

■基幹事業:道路事業
 大貫駅東口駅前広場の整備
 ■基幹事業:道路事業
 大貫駅地下歩道の整備
 □提案事業:地域創造支援事業
 大貫駅地下歩道の防犯対策(防犯対策、落書き防止対策)
 ■基幹事業:地域生活基盤施設
 大貫駅駐輪場の整備

■基幹事業:道路事業
 市道山王下飯野線の整備
 ■基幹事業:道路事業
 市道下飯野線の整備
 ○関連事業:本郷バイパスの整備(千葉県施工)
 ○関連事業:消防防災センターの建設
 ■基幹事業:道路事業
 市道小久保岩瀬線の整備

凡例
 計画区域
 基幹事業(道路)
 国道
 一般県道
 基幹事業
 提案事業
 関連事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 各道路整備区間の用地買収等が進み、工事着手を平成29年度から歩道整備や交差点改良整備を行える段階まで進展した。 消防防災センターが移転新設され、市民に安心・安全を提供できる緊急自動車の活動を行う環境は整った。 駐輪場の利便性向上、地下歩道の利用者増に寄与し、加えて東口駅前広場整備が完了によって、駅利用者の移動は円滑に行え、利便性の向上に寄与した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 早期の広域道路網整備に向け、道路整備連絡調整会議を継続して開催、協議・調整を図る。 道路整備を社資交に移行した後も計画的な整備促進に向け、道路沿道や周辺の関係権利者等への理解を得られる分かり易い説明会の実施により、市民の理解を得ながら、「道路の満足度」が高まるよう着実な工事計画を推進する。 利用しやすい公共施設の適切な維持管理と安心安全に利用できる施設の運営

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道山王下飯野線	922	1,300m	271.9	1,300m	事業費削減	道路の詳細設計に伴う道路線形上の用地買収は終了、工事着手前段階まで進捗しており、指標1に関するが、指標目標は据え置く。	—	—
道路	市道下飯野線	739	1,870m	273.7	1,870m	事業費削減	道路の詳細設計に伴う道路線形上の用地買収は終了、工事着手前段階まで進捗しており、指標1に関するが、指標目標は据え置く。	—	—
道路	市道小久保岩瀬線	281	590m	42.6	590m	事業費削減	道路の詳細設計に伴う道路線形上の用地買収は終了、工事着手前段階まで進捗しており、指標1に関するが、指標目標は据え置く。	—	—
道路	市道太田寺谷線	68	210m	—	—	事業費削減	影響なし。 事業未着手のため計画から削除した。		
道路	大貫駅地下歩道整備	42	96.3m	51.3	96.3m	事業費増加	—	●	
道路	大貫駅東口駅前広場整備	19	2,000㎡	24.3	2,000㎡	事業費増加	—	●	
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	大貫駅駐輪場	55	1,092㎡	38.2	1,092㎡	最適資材により事業費削減		●	
高質空間形成施設	大貫駅地下歩道防犯対策(照明)	3	—	—	—	削除	影響なし。		
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	大貫駅地下歩道防犯対策	8	防犯カメラ、塗装	3.0	防犯対策、落書き防 止対策	事業内容の変更(防犯カメラ→防 犯対策、塗装→落書き防止対策)、 事業費増加	影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	3	-	0	-	事業内容の変更に伴い削除	市の単独費で実施するので影響なし		
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
本郷バイパス整備		君津市下湯江～富津市上飯野	480	480	H22～27	H22～31	用地買収等が着実に進展し ているが、H31年度完成を 目指している。	事業主体:千葉県
富津市消防防災センター(消防本部・消防署)造成工 事		富津市下飯野	212	145	H23～24	H23～23	H23年度(24年3月)に造成 工事は終了。	事業主体:富津市
富津市消防防災センター(消防本部・消防署)新築工 事		富津市下飯野	1,316	1,016	H23～24	H24～24	H24年度に新築工事は終了 し、(25年3月)に竣工、消防 活動は円滑に行われている。	事業主体:富津市

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度				あり	なし			
指標1	道路の満足度	点	—	—	-0.42	平成21 年度	0	平成28 年度	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	-1.26	事後評価	×		●	
指標2	地下歩道の通行者数	人	—	—	904	平成23 年度	990	平成28 年度	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	1,089	事後評価	○		—	—
指標3	駐輪場の満足度	点	—	—	-0.81	平成23 年度	0	平成28 年度	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	3.1	事後評価	○		—	—

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	市民アンケートでの満足度では目標値を達成していないが、各路線ともに、事業実施箇所での基礎的な工事[実施設計、道路基礎工事(路体盛土)など]、用地買収が概ね完了し、工事着工直前まで進んだ。さらに、平成29年度から各路線の工事着手を順次進めることになっているが、目標値を達成していないため。	目に見えない道路整備の初期段階(測量・設計・用地確保・基礎的工事)を一般の方のアンケート調査で評価してもらうことは困難だった。
指標2	老朽化した施設の改修により、非常に明るく安全、安心な空間になったことで、地下歩道内の落書き防止塗料により落書きもなくなり、整備前より一般(高校生以下を除く)の男性・女性、高校生以下の男性・女性の地下歩道利用者が共に増加し、目標値を上回った。	
指標3	整備前は屋根が無く、放置自転車や転倒自転車が多くの防犯上にも問題があった施設の改良に、利用者の要望を取り入れ整備したことにより、快適で利用しやすいと満足度向上につながり、目標値を上回った。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	数値		
その他の数値指標1	%	平成24年から平成27年度までに用地買収が完了した「買収予定総面積」と「買収済み面積」をもとに「都市再生整備計画事業事業計画」で集計された「山下飯野線」「下飯野線」「小久保岩瀬線」の市道整備の進捗を確認し、3路線の平均を確認し、確定値とする。	—	—	0.0	平成23	モニタリング			道路整備は、目に見える形まで工事が進んではいないが、各路線の事業実施箇所での用地買収、基礎的な工事[実施設計、道路基礎工事(路体盛土)など]は進んでおり、整備に不可欠な道路用地確保が着実に工事着手段階まで進んでいることを説明するため。	指標1を補完して、道路整備事業が着実に進行していることを説明する。
							確定 ●	見込み	92.0		
その他の数値指標2	%	平成28年5月平日の午前6時～午後11時までの間に地下歩道を利用している出入りの人数を集計し、地下歩道の改修により増加した一般(高校生以下を除く)の利用者数をカウントし、その増加率を確定値とする。	—	—	0.0	平成23	モニタリング			整備により、着実に明るく安全、安心な空間づくりが進んでいるとの理解が高まり、事業効果があったことを説明するため。	指標3を補完して、利用しやすい公共施設づくりが進んだことを説明する。
							確定 ●	見込み	38.0		
その他の数値指標3	点	駐輪場の設備等の機能向上に対する事後評価調査として「大貫駅駐車場利用者アンケート」を実施し、計測する。4段階評価(4, 2, -2, -4)で整備前(従前値:0)として、整備効果について利用者の利用しやすさ、安全性に対する評価を確認し、確定値とする。	—	—	0.0	平成23	モニタリング			屋根が無く、放置自転車や転倒自転車が多く防犯上も問題があった駐輪場の施設改良の要望に応える整備が行われ、施設の改善や防犯性の向上について評価が高まり、その事業効果があったことを説明するため。	指標3を補完して、利用しやすい安全性も向上したことを説明する。
							確定 ●	見込み	2.5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・地下歩道は明るく安全に利用できるように整備されたことから、地下歩道内の内部湧水、さらに落書きも無くなり、地下歩道利用者に安全性・利便性が評価されて全体数も増加し、さらに一般(高校生以下を除く)の利用者も38%増えている。
 ・駅周辺の基盤施設(地下歩道・駐輪場・駅前広場)の機能向上を図ったことにより、一体的に利用されるようになり、大貫駅方向へより駅前広場方向への地下歩道利用者数が、男女ともに増加し、駅周辺は利用しやすい施設づくりが進んだと言える。
 ・天候に左右されずに利用できる屋根付き駐輪場が実現したことで放置自転車の減少にも寄与していると言える。
 ・大貫駅東口駅前広場は、減少傾向だったバス乗降客数が平成25年度の整備後に君津駅まで路線延伸したことも重なり、大貫駅を一体的に利用できる併設の地下歩道の安全性の向上とともに、平成27年度までに駅前広場バス停25%、大貫駅前バス停14%と両バス停の利用者数が増加したことから、利便性が高まり利用者の満足度も高いと考えられる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
道路整備事業説明会	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年～25年 全4回 沿道住民を対象とした事業説明会を実施し、住民へ情報提供を行う。 	引続き事業の実施状況について適宜、市民に情報を提供していく。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業の事後評価庁内検討会議	建設課 市民課 都市政策課	平成28年10月25日(火)	都市政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標2		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
指標名		地下歩道の通行者数		駐輪場の満足度		広域道路の公共用地の確保率		地下歩道利用者増加率		駐輪場の安全性向上	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道山王下飯野線	—	多くの人が通行に不安を覚えていたが、老朽化した施設の改修により、非常に明るく安全、安心な空間になり、落書きもなくなり、整備前より一般(高校生以下を除く)の男性・女性、高校生以下の男性・女性共に地下歩道利用者が増加が確認された。	—	整備前の屋根が無く、放置自転車や転倒自転車が多くの防犯上も問題があった施設の改良に利用者の要望を取り入れ整備したことにより、快適で利用しやすいと満足度向上につながり、従来施設より高い評価を得ていることが確認された。	◎	道路整備は、目に見える形まで工事が進んではいないが、市道整備に係る用地買収進捗率は、3路線とも順調に進んでおり、3路線の平均で92%まで進み、工事着工できる状況に至っており、道路事業は着実に推進されていることが確認された。	—	地下歩道は着実に明るく安全、安心な空間づくりが進んでいるとの理解が高まり、安全性・利便性が評価されて、一般(高校生以下を除く)の通行者数も38%伸びて地下歩道利用者が増加に寄与していることが確認された。	—	整備前は屋根が無く、放置自転車や転倒自転車が多くの防犯上も問題があった駐輪場の施設改良の要望に応える整備が行われ、施設の改善や防犯性の向上について評価が高まり、整備が寄与していることが確認された。
	市道下飯野線	—		—		◎		—			
	市道小久保岩瀬線	—		◎		—		—			
	大貫駅地下歩道整備	◎		○		—		—			
	大貫駅東口駅前広場整備	○		◎		—		—			
	大貫駅駐輪場	○		◎		—		—			
提案事業	大貫駅地下歩道防犯対策(防犯対策、落書き防止対策)	◎	○	—	—	—	◎	—	○	—	—
	事業効果分析調査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
関連事業	本郷バイパス整備	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
	富津市消防防災センター(消防本部・消防署)造成工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	富津市消防防災センター(消防本部・消防署)新築工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※指標改善への貢献度

◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

— : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	利用者の安心度が増すように地下歩道の安全管理、歩道壁面を明るく保つための計画的な維持管理を図る。	利用者目線に立って安全に利用できるよう、施設及び設備の維持管理を計画的に行う。			
-------	--	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標○			指標○			指標○			
指標名		道路の満足度												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	市道山王下飯野線	△	道路整備が目に見える形まで工事が進んではいないことあり、市民アンケートでの満足度では目標値を達成していない。しかしながら各路線ともに、事業実施箇所での基礎的な工事[実施設計、道路基礎工事(路体盛土)など]や用地買収が概ね完了し、工事着工直前まで進んだことが確認されている。	Ⅲ										
	市道下飯野線	△												
	市道小久保岩瀬線	△												
	大貫駅地下歩道整備	△												
	大貫駅東口駅前広場整備	△												
	大貫駅駐輪場	—												
提案事業	大貫駅地下歩道防犯対策（防犯対策、落書き防止対策）	—												
	事業効果分析調査	—												
関連事業	本郷バイパス整備	△												
	富津市消防防災センター(消防本部・消防署)造成工事	△												
	富津市消防防災センター(消防本部・消防署)新築工事	△												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	道路整備を平成29年度からの社会资本総合整備計画に移行した後も、道路利用者(市民等)の「道路の満足度」が高まるよう道路整備を進める。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業の事後評価庁内検討会議	建設課 市民課 都市政策課	平成28年10月25日(火)	都市政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・区域内の道路網整備については、歩行者等の安全対策として歩道設置や交通円滑化のための交差点改良等	・市道整備に係る用地買収進捗率は、3路線とも順調に進んでおり、3路線の平均で92%まで進捗し、工事着手段階に入った。	・道路工事着手にむけた整備促進 ・交差点改良や歩道整備を伴った道路整備の推進	
・消防防災センター移転に伴い、緊急車両が円滑に活動できる道路環境が必須であることから、交通円滑化に資する路線整備や活動困難地域の解消	・消防防災センターは竣工し、緊急自動車の活動を行う環境は整った。	・広域の医療施設への緊急車両の最短経路確保 ・活動困難地域の未解消	
・大貫駅周辺の施設整備については、利用者の安全性及び利便性への配慮から、駐輪場の利便性向上と地下歩道及び東口駅前広場の安全な空間づくり	・地下歩道、駅東口駅前広場、駐輪場など駅周辺の一体的な施設整備で、安全性・快適性・利便性が向上し、施設利用者の移動は円滑に行えるようになった。	・駐輪場の盗難やいたずらの防犯対策 ・駅利用者が利用しやすい乗換バスの発車時刻の配慮	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	・円滑な道路工事の推進	・道路整備連絡調整会議を継続して開催し、協議・調整の推進	・社会資本整備総合計画による道路事業
	・緊急車両が円滑に活動可能な道路環境の拡大	・緊急車両が円滑に活動可能な道路の改良	
	・安全・快適な利便施設づくり	・施設の安全性・快適性のさらなる機能向上	

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	・広域道路網整備に向けた工事計画	・区内の着実な道路網整備と歩道設置や交差点改良等の推進	
	・施設の安全性・快適性のさらなる機能向上	・利用者目線にたった施設づくりの継続	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	道路の満足度	点	-0.42	H21	0	H28	確定 ●	-1.26	×	あり	→	—	—	—
							見込み			なし ●				
指標2	地下歩道の通行者数	人	904	H23	990	H28	確定 ●	1,089	○	あり	→	—	—	—
							見込み			なし				
指標3	駐輪場の満足度	点	-0.81	H23	0	H28	確定 ●	3.1	○	あり	→	—	—	—
							見込み			なし				
その他の数値指標1	広域道路の公共用地の確保率	%	0	H23	/	/	確定 ●	92.0	/	/	→	—	—	—
							見込み							
その他の数値指標2	地下歩道利用者増加率	%	0	H23	/	/	確定 ●	38.0	/	/	→	—	—	—
							見込み							
その他の数値指標3	駐輪場の安全性向上	点	0	H23	/	/	確定 ●	2.5	/	/	→	—	—	—
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点	関連事業の消防防災センターは計画通り完成したが、道路について事業の進捗が遅れ完成には至らず道路の満足度を上げる事が出来なかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	計画通り、道路整備に関する説明会を実施できた。	
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点	事業が遅れ、住民に道路の完成についての不安を抱かせてしまった。	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成28年11月1日～11月15日	平成28年11月1日～11月15日	担当課で以下の方法で受け付ける。 ・窓口受付、郵便	都市政策課 建設政策係
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に掲載(市ホームページ及び都市政策課の窓口にて閲覧できる旨を掲載)	平成28年11月号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市政策課の窓口にて閲覧可能	平成28年11月1日～11月15日	平成28年11月1日～11月15日		

住民の意見	意見無し
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験を有する者	木更津工業高等専門学校 環境都市工学科 教授 鬼塚信弘	平成28年12月2日(金)	都市政策課	委員会設置要領	独自に設置
その他の委員	千葉県立君津商業高等学校 校長 渡部 清 富津市商工会 理事 小林 真知子				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	妥当である。
	成果の評価	妥当である。 駅前広場の満足度は、どう現せるのか、どの様に把握しているのかについて⇒添付様式2参考記述(定性的な効果発現状況)を説明し、「利便性が高まり利用者の満足度も高まった」ことについて、追記載した。
	実施過程の評価	妥当である。
	効果発現要因の整理	妥当である。
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である。
	その他	なし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	適切に実施された。妥当と判断します。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	妥当である。
	フォローアップ	翌年度のフォローアップでは、残事業が完了せず、指標が達成しない事が明らかであるため、フォローアップは実施せず、今後移行した補助事業で適切に評価を行うこと。
	その他	地下歩道は小学生が部活後遅く帰る時間の見守りはされているか。⇒見守りは実施していません。苦情、被害についても出ていません。防犯カメラにより抑止効果もあり、また、苦情が出た場合に限り防犯カメラで確認できることになっています。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	適切に実施された。妥当と判断します。
その他	なし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第3回変更)

ちょうしゃおよ おおぬきえきしゅうへん ちく
庁舎及び大貫駅周辺地区

ちばけん ふつつし
千葉県 富津市

平成28年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	富津市	地区名	ちようしやおよ おおめきえきしゆうへんち く 庁舎及び大貫駅周辺地区	面積	1,304 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標

- 大目標: 安全と安心を実感できるまちづくり
 目標1 安全・安心な生活環境基盤づくり
 目標2 利用し易い公共施設づくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・富津市は、昭和46年4月25日の3町合併により「富津町」となり、その後市制施行により昭和46年9月1日に「富津市」となった。そして、まちづくりの基礎となる都市計画も旧3町の個々の形態を維持し、旧富津町は線引き都市計画、旧大佐和町を非線引き都市計画、そして旧天羽町を都市計画区域外とし、南北に長い市域の中で複数の都市計画が混在している。

・そうした中でこれまで市では、旧まちづくり交付金制度の施行以降、これら都市計画区域に対してまちづくり交付金の活用を検討し実践してきた。市内に6駅あるうち、線引き都市計画区域に属するJR内房線青堀駅を中心とした区域を設定し、平成18年度から平成22年度までの5ヶ年で整備計画を立て事業を進めた。遅れていた都市計画道路等の整備を促進し市内の幹線道路網のネットワークを確立、地域資源の有効活用と保全として古墳群についても整備を図った。そして今後は、市の第3次基本計画でも引き続き駅周辺市街地の整備を位置付けており、大佐和都市計画区域に位置するJR内房線大貫駅とその周辺の道路を含めた区域の整備への機運が高まっている。

・今回の区域の大部分は大佐和都市計画区域に属するが、非線引き都市計画であり住宅が点在し、土地区画整理事業も無いため整形された道路も少ない。平成13年に策定した「富津市幹線道路網計画」では、当該区域の中央部に幹線2号とする市の南北を結ぶ路線の位置付けがあるが整備が進んでいない。このように、地域の特性によって生じている問題と合わせて、広域的な幹線道路網の整備も進めていきたい。

・一方、平成25年4月1日には、市役所庁舎の隣に消防本部が富津出張所との統合に合わせて移転するため、今後の緊急車両の移動ルートの見直しを行っている。これについては、前述後段の幹線2号の整備が緊急車両の交通の円滑化に寄与するものとする。同時に、広範囲におよび迅速な救急活動を実施するため、本郷地区方面へのルート整備や、各地区の消防救急活動等の困難区域の整備を進める。

・当該区域中央部に位置するJR内房線大貫駅は、市内全6駅のうち、2番目に利用者が多い駅であり、駅周辺の公共施設に対し、安全性の危惧や防犯対策の強化についての要望が多く、利用者の目線に立った施設改修が急務である。

課題

・区域内の道路網整備については、歩行者等の安全対策として歩道設置や交通円滑化のための交差点改良等が必要である。

・消防防災センター移転に伴い、緊急車両が円滑に活動できる道路環境が必須であることから、交通円滑化に資する路線整備や活動困難地域の解消が必要である。

・大貫駅周辺の施設整備については、利用者への安全性及び利便性への配慮から、駐輪場の利便性向上と地下歩道及び東口駅前広場の安全な空間づくりが必要である。

将来ビジョン(中長期)

・富津市都市計画マスタープラン(平成10年3月策定)においては、「固有の地域風土の中に、新たな生活文化と地域活力が生まれるまち」を将来像に、土地利用の適正な誘導及び固有の緑地資源、臨海部の海浜緑地の保全を図る地域振興を目指すとしている。

・第3次基本計画での重点課題の1つである、「安全・安心なまちづくり」については、自然災害への対応や施設の耐震化を念頭に置き、安全で安心して暮らせる地域環境づくりを整備するとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
道路の満足度	点	道路の整備に対する満足度	安全・安心な生活環境づくりとして、道路の新設及び改良を実施したことに対する、整備後の満足度を計測する。4段階評価(4, 2, -2, -4)のボーダー(中間点:0)を目標にする。	-0.42	平成21年度	0	平成28年度
地下歩道の通行者数	人	大貫駅地下歩道の1日の通行者数	利用し易い公共施設として、地下歩道の改修により増加した通行者数を計測する。従前値の1割増加を目標にする。	904	平成23年度	990	平成28年度
駐輪場の満足度	点	大貫駅駐輪場の利用者の満足度	利用し易い公共施設として、駐輪場の設備等の整備を実施したことに対する、整備後の満足度を計測する。4段階評価(4, 2, -2, -4)のボーダー(中間点:0)を目標にする。	-0.81	平成23年度	0	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(市民の生活環境基盤の強化)</p> <ul style="list-style-type: none">歩行者及び自転車利用者の安全性を確保するための路線整備を行う。緊急車両等の迅速な活動を可能にするため、交通処理上の問題を抱える路線を整備する。照明の不足やバス停ベンチの破損等による安全性及び利便性の低下を防止するため、大貫駅東口駅前広場の整備を行う。	道路(基幹事業)
<p>整備方針2(利用者の目線に立った整備による利便性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none">朝夕問わず安心して通行ができ、湧水による転倒の危険性を防止するため、大貫駅地下歩道の整備を行う。盗難防止及び降雨時にも利用ができるように、大貫駅駐輪場の整備を行う。	道路(大貫駅地下歩道)(基幹事業)、地域生活基盤施設(大貫駅駐輪場)(基幹事業)、地域創造支援事業(地下歩道防犯対策、落書き防止対策)(提案)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">交付期間中の円滑な事業推進と、目標に向けた効果を上げるため、各事業の横断的な協議・調整を図るとともに、進捗状況を検証し事業計画の適切な管理に努める。	

都市再生整備計画の区域

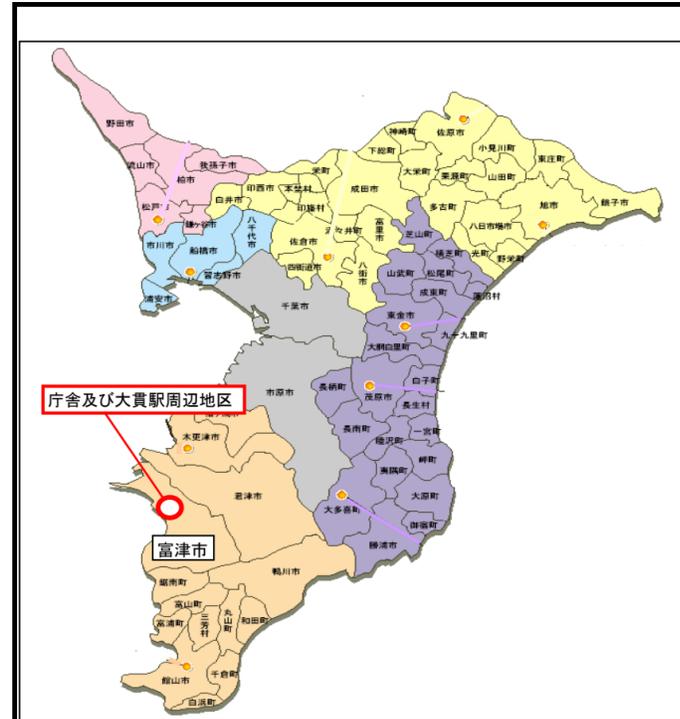
庁舎及び大貫駅周辺地区(千葉県富津市)

面積

1,304 ha

区域

富津市本郷、前久保、岩瀬、千種新田の全部と篠部、上飯野、下飯野、二間塚、小久保、西大和田、相野谷、中の各一部



凡 例

	計画区域
	国道
	一般県道
	鉄道(JR内房線)
	都市計画道路(整備済み)
	都市計画道路(施工中)
	都市計画道路(未整備)

